



気象庁発表 全国1か月予報

- 北日本日本海側では、天気は数日の周期で変わってでしょう。
- 北日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
- 東日本日本海側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- 東日本太平洋側、西日本と沖縄・奄美では、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

(7/30~8/29まで)

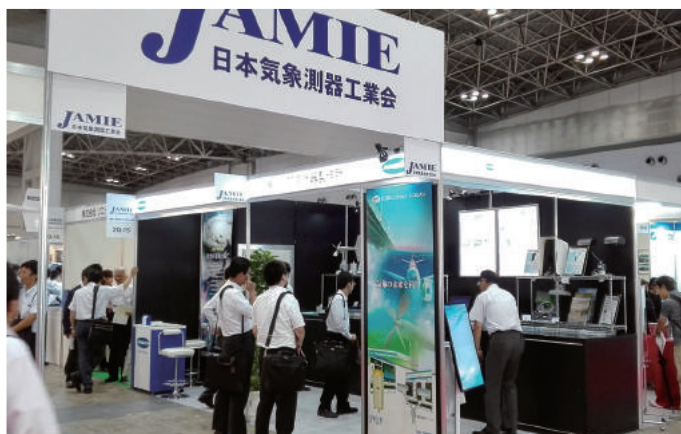
気象環境テクノロジー展へ クラウド気象観測システムを出展

標 準的なブラウザでの気象観測を実現した「WEB気象観測システム」は、その後のセキュリティー技術の発達や通信インフラの高度化と相まって、気象観測に関わるハード・ソフトの全てについて、外部サービスを利用するクラウドシステムへと変化を遂げつつあります。

クラウドシステムでは、サーバ等のハード機器や気象観測用ソフトを利用者側に設置しないため、機器の更新やOS・セキュリティーソフト等の更新・保守管理が不要であり、気象庁アメダスや予報等の外部データとの円滑な連携を実現し、気象情報公開用のホームページもクラウド側に設置するため、その可用性(継続稼働能力)の高さから災害対策用として注目され、クラウドを利用した気象観測システムを導入する自治体が近年急速に増えています。(参考例:クラウド河川水位監視システム概要図)

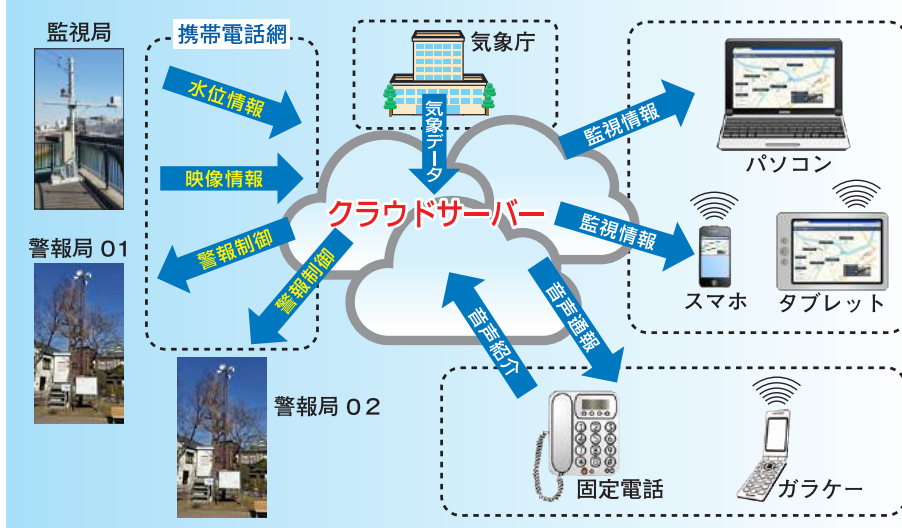
ANEOSグループでは、2016年7月20日~22日東京ビックサイトで開催された「気象環境テクノロジー展」に、「クラウド風向風速監視システム」及びクラウド方式により運用中の地方自治体の「防災気象観測システム」の提案展示を行いました。

「クラウド風向風速監視システム」では、携帯電話網の3G回線を使用し、1秒間隔で風向風速データを収集し高精度な風観測を実現、「防災気象観測システム」では、近隣のアメダス情報や雨量予測情報、土砂災害警戒情報等の防災情報をリアルタイムに表示する機能に注目が集まり、期間中150名を越える当グループブースへの来場者から熱心な質問が相次ぎました。



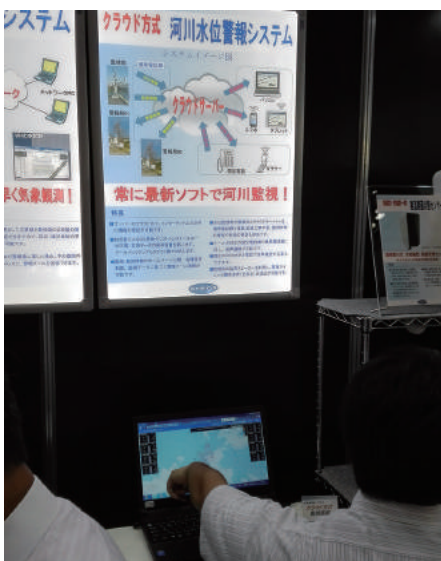
ANEOSグループ出展ブース

クラウド河川水位監視システム概要図



特長

- サーバーのクラウド化で、インターネット上での河川情報の確認が可能です。
- 観測情報のホームページ公開、各種設定制御、監視データに基づく警報メール通報が可能です。
- 水位監視局や警報局とクラウド網とは、携帯電話網で接続、配線工事不要、監視体制の増強や各局の移設も容易です。
- メール非対応の固定電話機や携帯電話機に対し、音声通報が可能です。
- 現在の河川状況を電話で音声確認する事ができます。
- 監視局の拡声スピーカーを利用し、警報サイレンや警告音声(定形文)の送出が可能です。



クラウドシステム展示コーナー